

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の今までの生活を理解し、尊重し、安心して生活できるように心がけ、また入居者を尊厳していけるよう努めています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の仕事で個人個人が意識はしているが、具体的に理念に基づいた話し合いは十分でないように思います。	○	月一度の会議などで理念に基づいた指導に取り組んでいきたいと思います。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	推進会議への家族、地域住民の参加が見込めておらず、十分だとはいえません。	○	グループホームへの理解を深めていただけるような会議内容を検討し、参加を呼びかけていきたいと思います。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的にはないがおすそわけなどをいただくこともあります。昨年は夏祭りにご近所の方をお呼びし、楽しんでいただけたと思いますが、日々の交流としてはまだ不十分な点が多いかと思っています。	○	日常的に立ち寄っていただけるような関係作りについて検討していきます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新しい住宅街のため、自治会などが発足していないが、地域のお祭りや他施設の文化祭、近隣の保育園の行事への参加など、少しずつではありますが、交流を広げられているように思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年は、はじめて夏祭りを開催したのですが、徐々に地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか検討していきたいと思っています。	○	交流を持っていく上で、グループホームとして地域から何を求められているかを知り、役立てていければと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の理解という点では十分ではないと思います。評価後の改善点については全職員で取り組んでいくよう努めています。	○	評価を実施する意義と評価後の改善の取り組み、両方でケアの質の確保など、いろいろ見直すことなどもあると思うので全員で取り組んでいきたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での参加者の意見を活かすよう努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、出来る限り連絡、訪問しこまめに相談、報告、質問などするようにしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	協議会などに参加し、資料は準備しているが活用までには至っていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の会議などで、虐待防止に対する意識が高められるよう、新聞記事などを用い、指導を心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらかじめ不安、疑問点について尋ね、安心して入居できるよう出来る限りの説明は行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より不満などの意見を出された際には職員間で解決策はないか検討し、時には家族への協力も要請しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	たよりを発行したり、受診時、特変時の報告は必ず行い、家族の思いをふまえた上で、ケアの方向性を家族とともに検討しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を提示しているが、実際に家族が意見を表せているか疑問です。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題がでた時には、まず職員に問いかけ、現場での対応は可能かどうか、検討してもらい方向性を決めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診状況を考慮した上で、勤務表作成に努め、緊急時にも職員間で相談し、十分な人員確保できています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による入居者の不安は大きく、入居者への対処、配慮が不十分だと思います。	○ 離職時には入居者への対処、配慮の検討が必要と思われます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>年齢性別に関係なく、入居者にとって良い影響を与えてくれるような職員選別に勤めています。また職員についても研修への参加を増やすようにし、いろいろな経験に接することが出来るよう努めています。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者に対する接し方など、人格の尊重は会議で呼びかけているが、特別に人権教育、啓発活動は十分には行えていません。</p>	<p>○ 人権教育、啓発活動の機会を設けていきたいです。</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>可能な限り研修を受けられるように働きかけ、参加することも増えているが、研修の結果を持ち帰っての勉強会や情報の共有は、十分とはいえません。</p>	<p>○ 職員皆が共有できるような機会を設けていきたいです。</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>入居者を交えた交流は少しずつ出来ているが、介護職としての意見交換する場としては、まだ十分ではありません。</p>	<p>○ 地域の同業者との関わり、信頼を深めていけることで、地域で高齢者を支えていけるよう繋げていければと思います。</p>
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士が相談し合える関係にあり、問題が生じた場合にも、運営者を交え解決策について検討しています。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>いろいろな業務に関わってもらうことで、一人一人が責任ある言動を意識し、向上心に繋がっているのではないかと思います。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	あらかじめ本人より、不安や困っていることなどを聞きとり、入居後、どんな対策が必要か検討した上で、入居していただいています。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安については、事前に聞きとりした後、医療関係者などと相談した上で、十分な説明、理解を得られるように努めています。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス機関との連携がもっと必要だと思われます。	○ 必要に応じたサービス提供が、可能になるよう、他サービスとの情報交換が行えていければと思います。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後は環境の変化などでの戸惑いも多く、家族への協力や雰囲気作りにもっと工夫が必要だと思われます。	○ 家族や本人の要望をふまえながら、可能な限り本人の負担を軽減できればと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	互いに必要としあう関係を心がけ、介助を受けているという負担のないように努めています。	○	職員も助けられているということを入居者にも実感できるケアの意識を高めて生きたいです。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段の状態報告をこまめにすることで、家族の意見、思いを参考にしながらケアに繋げている。	○	入居者との関わりの場をもっと増やしていくことで、課題を明確にし、家族からの要望も増やせていければと思います。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係を築くためにも、面会時や二ヶ月に一回のたよりなどでも、日頃の様子や出来事を報告し、喜びを共有できるよう心がけています。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にも、ゆっくりくつろいでいただけるように気をつけています。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	互いの状態を理解した上での関わりが持てるよう心がけていますが、十分な理解が得られず、周囲との距離をおかれ、孤立してしまうかたもいらしゃり、関係作りの難しさを感じます。	○	引き続き働きかけは行っていき、孤立の見られる方への配慮も検討を続けていきたいと思っています。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて、出来る限りの対応はしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの希望、意向にそえるよう、職員間で検討を行っていますが、困難な場合には十分な説明を行い、理解を得られるように努めています。	○ 健康面に影響しないことに関しては、引き続き検討、支援を心がけていきます。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族より、出来る限りの情報は得よう努めています。	○ 入居前の情報だけでなく、日頃の関わりの中でも、ケアのヒントになり得る情報収集に努めています。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の能力、状態を知ること、それに応じた個別の生活リズムを確保できるように努めています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員では判断しにくいことについては、普段の入居者との会話をヒントにしたり、家族や医師に相談、意見を求めることで、介護計画の作成に繋がっています。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況の変化に応じ、計画の見直しは行うように努めているが、家族の意見が十分反映しているとはいえません。	○ 家族への状態報告を心がけるとともに、希望、意見を引き出せるよう努めています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記載者により内容のばらつきがあります。	○	日々の記録のチェックを徹底していき、必要な記録が残されていくよう職員一人一人に働きかけていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限り、相談などは行っているが、十分ではないと思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館など利用して入るが十分ではないと思います。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、行っているが十分ではないと思います。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの職員には、推進会議に参加していただき、また相談、質問などをこまめにしよう心がけています。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人、家族の希望をとった上で、納得できる受診が出来るよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段より指導は心がけていますが、声かけのトーンやタイミングへの配慮が不十分のように思います。	○ 職員一人一人が意識を高められる指導について検討が必要です。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	表現がうまく出来ない方についても、表情などから思いを十分にくみとれるよう、日々の様子の観察に努めています。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が時間に追われていることが多く、入居者にとって一番良いペースが保てていないように感じます。	○ 職員同士が互いの動きを理解し、入居者のペースを乱さない役割分担を心がけていきたいと思っています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力も得ながら、出来るだけ本人の希望にそえるよう努めています。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じた作業に取り組んでもらうことに努め、キッチンが安らぎの場になっている方もいらっしゃいます。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の健康状態を考慮すると、十分に本人の希望にそえているとはいえません。	○ 健康に影響を及ぼさない物に関しては、本人の希望にそえるよう努めていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限りトイレでの排泄が出来るよう、排泄パターンや尿意、便意を催した時のサインを把握し、おむつなどの使用を極力おさえています。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を支援できるよう心がけ、本人の望まれる時間帯の入浴を楽しんでいただいております。入浴できない場合においても、清拭、足浴などで対応しています。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に合った室温や明るさに配慮し、居室での孤独を感じず、安眠していただけるよう心がけています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の希望にそった活動の支援を心がけたり、入居者の経験を生かした活動を働きかけていますが、中には役割を見出せていない方もいらっしゃいます。	○	入居者と職員が互いに、支えあうという意識を深めていくことで、入居者にもっとやっていただけないか検討を続けていきます。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一度の買物日に決められた金額内の買物を楽しんでいただいておりますが、周囲とのトラブルを心配し、個別にお金を所有していただくことは控えてもらっています。	○	家族との相談やいろいろな場面で起こりうる問題を考慮した上で、所持していただくことの可能性も検討していきたいと思っております。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、外出の予定を立て、支援は行っていますが、日々の希望にそった支援には繋がっていないと思います。	○	その日の入居者の状態に対応できる体制についても検討したいと思います。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族付き添いのもと、自宅の様子を見に行ったり、家族も楽しんでいただけるような外出を企画するよう心がけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて、電話、手紙のやりとりができるよう、支援しています。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室、ホールにて気軽に過ごしていただけるよう、対応しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が十分には理解できていないと思うが、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず、入居者の出入りについては、自由に行っていただき、玄関のチャイムや動きに十分注意を払い、対応しています。	○	鍵をかけないことでの危険性の理解を深め、より安全なケアに繋げていきたいです。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の希望に応じ、過度な関わりや働きかけにならないよう、配慮しつつも、昼夜問わず、こまめな巡回にて状況の把握に努めています。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物など希望に応じて貸し出しているが、使用後はすみやかに所定の場所に保管しています。	○	個別に所持されているもののチェックを徹底したいと思います。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その時の入居者の状態を把握した上で、起こりうる危険を予測し、対応については看護師をふまえ、相談した上で職員に申し送り、一人一人が注意をはらうよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の受講や、マニュアル作成により、緊急時の対応に備えていますが、働きかけとして不十分だと思われます。	○	会議などを利用し、対応の確認をこまめに行い、理解を深めていけるよう努めています。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の確保を行い、消防署や警察署からの協力を得られるよう働きかけています。	○	地域の方への理解、協力が得られるよう、引き続き働きかけていきます。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人の状態、希望に基づいたケアを行う上で、起こりうる危険性については、家族に報告し、理解を得たり、相談しながら入居者、家族がともに納得できるケアに努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態変化に気づいた際には、必要に応じ医療機関に連絡をとり、指示を仰いだ上で適切な対応がとれるよう努めています。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時点で、受診記録、介護日誌で情報を共有し、また個々の薬箱にも内容の変更を記入したメモを貼り、職員一人一人が理解できるよう努めています。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態の把握に努め、必要に応じた緩下剤服用の支援はしているが、食事や運動による働きかけが不十分です。	○	引き続き水分摂取の確保をしていくとともに、食事内容の検討や、入居者の身体状態を考慮した上での、運動にも取り組んでいきます。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、介助に努めているが、中には今までの生活習慣も影響して、毎食後のケアの難しい方もいらっしゃるようです。	○	引き続き働きかけは行っていきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、刻み食を準備したり、飲み物の温度にも配慮し、摂取につなげています。またチェック表にて摂取量の把握に努めています。	
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、それにそって必要時にはこまめな申し送りなどで、対応の徹底を心がけています。	○ 感染症のリスクに対する理解も深めた上で、予防の徹底に繋げていきたいです。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週三回の食材買出しにて新鮮なものを提供できるよう心がけ、調理用具も清潔を保てるよう、決まった時間帯で管理を行っています。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎月、園芸担当を決めています、働きかけとしては不十分で、季節感を出せていません。	○ 入居者を交えた玄関周りの環境整備に努めていきたいです。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入浴は毎日ほぼ全員が行っているため、毎回清掃、換気に努め、気持ちよく入浴していただけるよう努めています。またホールでは、毎月の担当者が季節感のある壁画を作成しています。	○ 壁画作りには、入居者がもっと一緒に取り組めるよう工夫していきたいです。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の入居者の精神、身体状態に合った居場所に動けるよう働きかけています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、家族と相談し、使い慣れたものを準備していただけるよう働きかけています。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の動きに応じ、ホール、居室の換気はこまめに行っています。温度調節も入居者と確認とりながら本人に快適な状態を心がけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の妨げになるものは、除くよう心がけていますが、手すりなどに個人のを置かれているため、整理していただく働きかけが必要かと思えます。	○	本人の気分を害さないような声かけを心がけ、必要に応じて整理していただけるよう、理解を求めていきたいと思えます。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わからないことに対しても丁寧な声かけに努め、極力自力で行っていただけるよう配慮しています。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に合った花や野菜を育てたり、それを散歩しながら一緒に楽しんでいけるよう努めています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

家族とのかかわりを深めるために、行事への参加を働きかけています。昨年より夏祭りへの家族や地域関係者への参加を呼びかけたり、家族参加の外出も行っております。日頃のこまめな状態報告とあわせ、実際に関わっていただく機会を増やすことで、家族との信頼関係が深まり、利用者、家族ともに安心して生活を送れるケアに繋げていければと考えています。